

# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

<b>団体名</b>	特定非営利活動法人MIYAZAKI C-DANCE CENTER		
<b>所在地</b>	宮崎県宮崎市	<b>設立年</b>	2008年
<b>運営主体</b>	特定非営利活動法人MIYAZAKI C-DANCE CENTER		
<b>事業目標</b>	申請団体は令和3年度の受託団体である。令和4年度は、前年度の課題の解決と成果の活用を図り、地域文化倶楽部(仮称)の持続可能なモデルづくりに取り組む。 本実践研究の目的1 地域の子供たち(特に、中学生)が質の高い文化芸術に親しむための継続的な機会の創出 本実践研究の目的2 次代を担う地域の子供たちの文化芸術体験活動の支援		
<b>きっかけ</b>	<p>○2019年3月に、地域の認可保育園の協力の下、申請団体の拠点となる「国際こども・せいねん劇場みやざき」をオープンさせた。また、そのオープンから3年が経過する中で、劇場の存在とその目的(子供と青年に特化したアート空間)が、広く地域に認知されるようになった(例:「国文祭・芸文祭みやざき2020」分野別フェスティバル「小さなアートフェスティバル」の会場)。</p> <p>○劇場オープン当初より、「国際」の付いた劇場に相応しく、世界を視野に入れた活動に地域の子供たちを誘いたいと考えていた。一方、コロナ禍で海外との活動が制限される中、AIやメタバースによるコミュニケーションが一気に広がった。</p> <p>○ダンスが保健体育で取り扱われるため、県の高文連にも高体連にもダンス専門部がない。そのため、高校にダンス部・ダンス同好会があっても活動の場が限られていた。</p> <p>○県内にダンス部がある中学校はごく僅かであり、「中学校にダンス部があれば入りたかった」(中学生)や、「進学先の中学校にダンス部を作って欲しい」(小学生)といったニーズがあった。</p> <p>○また、ダンス部が中学校にないことから、ダンススタジオ(有料)に通ってダンスを楽しむ生徒も多い。その一方で、経済的な理由で通えない生徒もいる。この生徒の貧困による格差とその是正も解決すべき課題となっていた。</p> <p>○文化政策が専門の長嶋由紀子氏(東京大学人文社会系研究科研究員)から、本事業を紹介され、R3年度の本事業への応募を勧めていただいた。</p>		
<b>団体・組織等の連携</b>			
<b>活動場所</b>	国際こども・せいねん劇場みやざき(愛称: GandY) 「GandY」(Children and Youth)は、昼は隣接する保育園の園児が走り回る体育館、夜と週末にはコンテンポラリーダンスなどの芸術鑑賞の劇場となる。空間活用とアート教育、地域の保育支援、アーティスト育成といったいくつもの顔と役割を持ち、芸術に触れる機会や場が少ない子供や地域住民、そしてアーティストにも開かれた「場」である。		

## 活動概要

年度当初は2つのメニュー(A・B)でスタートしたが、後半にメニューCを追加した。

### ●メニューA ちいきメタバースクラブ

内容:リアルとバーチャルをつなぐ、新しいコンピューティングのスタイルや表現を体験するクラブ

対象:地域の中・高校生

実施方法:原則メンバー固定の「定期講座」/月2回(年21回)/参加費用:1回1,000円

/募集人数:10名

達成目標:参加数→募集人数の80%/リピーター数→参加者数の50%

学校や地域との連携によって得られる成果等:宮崎市と地域の文化芸術団体、学校が、宮崎市文化振興条例に示された役割をそれぞれが果たすことができる。

#### 【目標の達成状況】

参加者数:前期7名/後期5名 のべ参加者数82名

主な活動内容は下記の年間スケジュールに記載。

(定量的観点)本県では長らく「人口10万人あたりのコロナ感染者数全国1位」が続いた。

そこで、県の感染者数の推移を見ながら前期は9回、後期は12回、実施することができた。

募集人数に占める参加者数は70%。参加者数に占めるリピーター数は88%。目標値を達成

できた要因としては、中・高等学校の従来からの文化部で取り扱う内容との差別化を図った

こと、またそれ(内容)が中・高生にとって興味のあるメタバースであったこと等が考えられ

る。

#### 【事業計画書との差異】

・参加者に中学1年生が多かったことから、前期は当初の計画(2回/月)での実施は難しかった。逆に学校生活に慣れた後期は、次々新しい行事が決定したことから、実施回数が増えた。

・指導者については、参加者からの要望もあり、特別講師(甲斐達也/株式会社コトログ)

はじめ、自他ともに認めるスキルを持つエンジニア・アーティスト、大学教員等(例えば、

Microsoft Regional Directorの中村薫/株式会社ホロラボ代表や航空宇宙工学の井口雄三

/航空大学校教授、等)を追加した。

### ●メニューB イマジネーションダンスクラブ

内容:メタバース世界に入る前に、たっぷりフィジカル(身体)を楽しむダンスクラブ

対象:地域の小学生

実施方法①:クール型(前後期)「定期講座」/月2回(21回)/参加費用:1クール12,000円

/募集人数:20名程度

実施方法②:随時参加可能な体験型/年5回/参加費用:1,000円/募集人数:10名程度

達成目標:参加者数→募集人数の80%(前後期)/リピーター数→参加者数の50%(同)

学校や地域との連携によって得られる成果等:宮崎市と地域の文化芸術団体、学校が、宮崎市文化振興条例に示された役割をそれぞれが果たすことができる。

#### 【目標の達成状況】

参加者数 クール型 前期11名/後期12名 のべ参加者数185名 体験型 のべ参加者数63名

主な活動内容は下記の年間スケジュールに記載。

(定量的観点)実施回数は、クール型については、前期10回、後期11回(計21回)。募集人

数に占める参加者数は57.5%(前期)。参加者数に占めるリピーター数は100%(全期)。募

集人数において目標値を達成できなかった要因としては、オーディションを実施したこと

で、ハードルが高いという印象を与えてしまったことや、前期に地域に活動の様子を紹介す

る機会がなかったことが考えられる。一方、オーディションを実施したことで責任感が生まれ

たのか、年度途中で1人も退部者が出なかった。

#### 【事業計画書との差異】

・活動日程については、ほぼ計画通り進めることができた。後期については、計画当初に想定していなかった地域イベントへ参加することができた。

・当初の計画にはなかったが、「クラブを体験してみたい!」という声に応じて、夏休み期間

に体験型(全5日)を実施した。「イマジネーションダンスクラブへの参加はハードルが高い

と思っていたけどお試しがあってよかった」という感想やHPを見た県北の僻地校や県外

(京都)から帰省中の小学生も参加してくれた。なお、体験型の実施後に近隣の小学生2名

が入部した。また「イマジネーションダンスクラブ」もインテグレートした12月の公演後にも1

名が入部した。

<p style="text-align: center;"><b>活動概要</b></p>	<p>●Cコース ちいきコンテンポラリーダンスクラブ          内容:学校の文化部でも地域のバレエスタジオでも取り扱わないコンテンポラリーダンスを文化として体験するクラブ          対象:地域の中・高校生          実施方法:随時参加可能な体験型/年6回/参加費用:3,000円/募集人数:5名程度          達成目標:参加者数:募集人数の80%/リピーター数:参加者数の50%  <b>【目標の達成状況】</b>          参加者数 のべ参加者数20名          (定量的観点)参加回数は6回。募集人数に占める参加者数は67%。参加者数に占めるリピーター数は100%。参加者数が目標値を達成できなかった要因としては、年度途中でスタートしたことや不定期講座としたこと、「鑑賞」を必須として参加費用(3,000円)にチケット料金を含めたこと等が考えられる。また、リピーター数が目標値を達成した第一の要因は、招聘した特別講師(埴睦美/モモンガコンプレックス、仁科幸/同、久保田舞、中川鈴音)の力量だったと捉えている。  <b>【事業計画書との差異】</b>          年度途中で新規クラブをスタートさせることにしたのは、メタバースクラブの参加者に女子がいなかったことが大きい。コンテンポラリーダンスを体験する場がないという声以前からあったこともあり、次年度を待たずに実施することとした。指導者については、新たに予算化せずに、本団体の別事業で招聘した振付家・ダンサーにも協力・依頼した。</p>
--	--

## ○本事業による成果

「教員の負担感軽減に寄与できているか。(従来の学校部活動と比較して従事時間がどう変化したか)」について。本モデルでは、「児童・生徒のニーズの多様化」及び「部活動に代わりうる継続的で質の高い文化芸術活動環境の不足」等の課題を解決するために、「地域文化倶楽部等」に位置付けて3つのメニュー(実践研究)をデザインした。それぞれの実践研究が目指したのは「少子化の中でも、将来にわたり子供たちが文化芸術に継続して親しむ機会を確保すること」及び、「本事業を契機に、生徒や保護者等が地域の活動に主体的に参画すること」であった。従って、成果の観点「教員の負担感軽減に寄与できているか」については、直接的に寄与することはできていない。しかし、児童・生徒のニーズに応えることや、質の高い文化芸術活動環境の提供を諦めていた教員の中には、該当しそうな児童・生徒に本モデルを紹介したり、保護者に進めたりするなど、間接的ではあるが教員の負担感軽減に寄与できていたと言える。

「学校全体としてどのように変化が生じたか。(良くなった点、悪くなった点)」について。本モデルには、地域の小学校が10校、中・高等学校(私立を含む)が8校、計18校の児童・生徒が参加しているが、実態は各校1名、多くて2名であり、学校全体に変化を生じさせるような影響力は期待できない。しかし、各実践に参加した児童・生徒が友達を誘ったり公演等の招待状をクラスで配布したりしたことで、お試し入部したり、その後に入部したりする児童・生徒が現れている。本モデルが、少しずつではあるが学校や地域で認知され始めたのではないかと捉えている。

「アンケート、ヒアリング等の結果など。」及び「学校の部活動との関係性について。(将来、部活動に代わり得る活動として実施していけるか)」について。本モデルが「少子化の中でも、将来にわたり子供たちが文化芸術に継続して親しむ機会を確保すること」を目的としたことで、全てのメニューで、児童・生徒が保護者の同意を得て参加してもらい、それぞれの学校・教員へは、保護者を通して本モデルに子供が参加していることや具体的な活動内容について報告してもらう方法をとった。ただ、メニューAに参加している中学生は学校の部活動にも魅力を感じて参加している。将来、本モデルが学校の部活動に代わり得る活動として実施していけるかは、ニーズ次第であり、学校の土日の部活動の地域移行が当然になれば実施していけるのではないかと捉えている。

### 【その他の成果】(定性的観点)

#### ●メニューA「ちいきメタバースクラブ」の定性的観点

・とても有意義で貴重な体験、経験をさせてもらっている。・社会とつながっていることを体感できるようなクラブ(例えば、東京大学メタバース工学部ジュニア講座の受講を勧められた)。・全力を注げた。・みんなで協力してゲームを作りあげたい。

#### ●メニューB「イマジネーションダンスクラブ」の定性的観点

・参加できない回がすごく残念でした。・他の学校の学年が違う友だちと一緒に行動できてよかった(兄弟がいないので)。  
 ・他にはない活動をさせてもらえた。・スケジュールが早めにわかると予定が組みやすい。・世界とつながれることがしたい。  
 ・活動を記録・整理しながらふりかえる時間があつたらいい。

#### ●メニューC「ちいきコンテンポラリーダンスクラブ」の定性的観点

・宮崎は都会とくらべて様々な舞踊を学べる機会が少なく、舞踊の素晴らしさを感じられる機会が少ないので、このクラブは本当に有難いです。・普段している動きではなく全く新しい動きができてとても面白かったです。・自分やときには仲間の身体と向き合うことは大切なのに、学校の部活ではなかなかできないので貴重な体験です。・宮崎でコンテンポラリーをすることはできないと諦めていたが、このクラブでたくさんの経験と素敵な出会いがあった。環境も整っていて、本当に参加してよかったと毎回思った。・時間が短すぎて理解しきれなかったり未完成だったりしたので、集中や事前に振り付けの動画をもらえたり、後日にオンラインで質問できたりすると嬉しいです。・早い段階から予定がわかるともっと参加しやすいです。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

「生徒たちが満足する指導ができているか。(他の学校部活動と同等以上の指導内容となっているか)」について。本モデルの講師を専門家依頼し、それぞれの講師も、知識を教えるに止まらず、興味・関心を引き出すような活動づくりをしていたことやリピーター数が高いことから、参加者の満足度は高いと言える。ただし、学校部活動(小学校はクラブ)と同等以上の指導内容となっているかは、県下に比較対象(同様の学校部活動・クラブ)がないため言及できない。

「技術指導以外の周辺知識(楽器のメンテナンス方法等)の指導も行っている等」について。特にメニューAについては、Oculusの取り扱い方だけでなく、関連機器やソフトについても取り扱いの指導を行なった。

「指導のための研修制度(技術的、精神的)があるか。」について。次年度のメニューB・Cの講師候補者に対し、活動への参与観察や、補助者として実際に活動に参加する研修制度を設けた。

「芸術系大学等との連携(生徒のモチベーションアップ)は図れているのか。」について。本県には芸術系大学・学部等がない。ただし、本申請団体は国内外で活動するアーティスト(振付家)が立ち上げたアートNPO法人である。例えば、毎年、国内の美術館と協働した内容を紹介するなど、参加者のモチベーションアップを図っている。R4年度は、丸亀市の猪熊弦一郎現代美術館や小国町(熊本県)の坂本善三美術館と協働した内容も参加者と共有した。さらに、後期は、本モデルが拠点とする劇場で実施したAFF2(文化庁)の事業にインテグレートできるように仕組みた。また、メニューCについても、講師にお茶の水女子大学文教育学部芸術表現行動学科(舞踊コース)のOGを招聘し、参加者のモチベーションアップを図った。

## ○運営上の工夫

「指導者の養成・質・量の確保について(どのように、誰が、いつ)」について。メニューAは、年度当初にリストアップした候補者(指導者・講師)の中から、活動内容や進み方、参加者の要望等を鑑みながら、特別講師・協力講師を招聘するようにした。メニューBは、R3年度に引き続きR4年度も、教職大学院(教育学・美術科教育・情報教育)を修了した本団体のアーティスト3名(振付家・ダンサー/文化庁の芸術家の派遣事業の講師)と舞踊教育の専門家を主たる指導者とした。メニューCについては、年度途中からスタートしたこともあり、新たに予算化せずに、本団体が実施した事業の関係者(公演出演者、派遣芸術家事業の講師他)にも協力・依頼した。

「活動時間等の在り方等について(ガイドラインの活用等)」について。本モデルでは1回の活動時間を90分に設定し、終了後に、参加者、指導者の時間が許す範囲で質疑応答やふりかえりの時間をとった(30分程度)。保護者を対象としたアンケート調査においても、「ちょうどよい」を選んだ保護者が多かった。活動が盛り上がり90分では終わらない回も少なからずあった。

「生徒たちの募集について(どのように、誰が、いつ)」について。本モデルでは、本団体のHPやSNS等を活用して参加者を募集した。なお、メニューAについては、近隣の公立高校に協力をお願いし、市内の高校へ働きかけをしてもらった。教員からの手応えは感じ、興味・関心を示した高校生もいたが部員として参加するまでには至らなかった。

「地域、保護者、教育機関等との連絡調整について」について。主に本団体のHPとSNS、メールを活用した。

「コーディネーター・ファシリテーター等の役割を担う人材育成は図れているか。」について。

文化庁の「芸術家派遣事業」と兼ねて本団体のスタッフ(アーティストを除く)を対象にコーディネーターの育成を図っている。ファシリテーターの育成については、本団体のスタッフ全員が教員免許状を有しているため現時点では考えていない。

「民間企業とのタイアップ等について」について。R3年度、本団体の活動に興味・関心のある小児科医(地域医療のリーダー)に、事業の成果と今後のタイアップ等についてプレゼンすることができた。その流れで、R4年度は、メニューBの参加者が出演することを条件に、本団体が主催した公演(AFF2採択事業)をタイアップしてもらった。

「用具(楽器等)調達、運搬、保管について」について。メニューAで使用するOculusについては、円高の影響で一気に値上がりし、追加購入が叶わなかった。急遽、スタッフの私物等を総動員して実施した。その他の機材・用具については、本団体の別事業で使用したものを兼用した。保管については、新たに倉庫を購入した。なお、メニューBの参加者が、購入した倉庫の壁面を地域の景観にふさわしくデザインした。※「子どもの力!倉庫ビフォーアフター」

「活動支援・事業運営のためにICTを活用しているか。」について。積極的に活用している。

「関係者全員にとって無理のない仕組みを構築しているか。」について。R3年度に引き続きR4年度も、コロナ禍の影響で海外での公演活動が中止・延期となった。そのため、overwork覚悟で計画当初にはない活動も実施した。R5年については、すでに海外公演も決定しており、継続的・計画的に実施するためには、無理のない仕組みの構築は必須である。(要検討事)

## ○継続的な運営に関する課題・展望

「自治体、地域民間企業等との連携協力体制の構築ができているか。(今後、構築可能になるか)」について。宮崎市(本団体が拠点とする自治体)の公立学校(特に、中学校)が地域文化倶楽部を導入することになり、ニーズがあれば、本団体から自治体に連携協力体制の構築を提案させていただく予定である。それまでは本モデルを継続実施し、得られた成果を自治体へ報告する。R4年度は、地域民間企業の八紘運輸と連携・協力し、新造船HAKKOUひなたとのPRを目的に、イメージーションダンスクラブの参加者が甲板上で活動成果を披露した。

「人材確保のために教育委員会、地域、団体等の連携が図れているか。」について。宮崎市(本団体が拠点とする自治体)の公立学校(特に、中学校)が地域文化倶楽部を導入することになり、ニーズがあれば、本団体から地域の教育委員会に対し、人材確保のための連携について提案させていただく。それまでは本モデルを継続実施し、得られた成果を地域の教育委員会等へ報告する。R4年度は、9/2に宮崎大学CROC第29回技術・研究発表交流会で事例発表を行った。

「会費徴収に関して保護者・学校等の理解が得られているか。(今後、どのように理解を得ていくか)」について。本モデルでは、参加の条件に保護者の同意を加えたことから、会費徴収に対する理解は得やすかった。今後、公立学校(特に、中学校)が地域文化倶楽部を導入することになり、ニーズがあれば、先行している事例(例えば、総合型スポーツ倶楽部の会費徴収の金額等)を参考に、自治体、地域の教育委員会に指導していただきながら、会費徴収に対する保護者・学校等の理解を得る手立てを探っていきたい。

「民間の文化芸術団体等との連携は図れているか。」について。本事業を継続的に実施することになれば、自治体において、本事業に興味関心を示している民間の文化芸術団体を紹介していただき、連携協力を呼びかける。

「人材バンク等の活用は図れているか。」について。本事業を継続的・計画的に実施することになれば、積極的な活用を検討する。

「自治体等の補助金制度、民間の基金等の活用。(単年度ではなく、継続的・定期的な)」について。本事業の継続実施を想定し、継続的・定期的な補助金制度や基金等があるかをネットで検索している。また、自治体に対しては、該当する制度ができるときには前もって教えていただきたいとお願いしている。

「会費の徴収について。(金額は妥当か)」について。回数及び時間を鑑み、妥当と思われる会費を設定・実施した。アンケート(保護者)では「妥当な金額」という回答が大多数であった。

「保険(公益財団法人スポーツ安全協会等)への加入を必須としているか。」について。当法人に関わるイベントに対して一括契約をしている。本事業を継続的に実施することになれば、より保障が充実した保険の加入を検討したい。

「減免措置のあるホール等(場所)を利用している等。」について。本団体が運営を任されている、専用かつ安価に利用できる拠点劇場(所有は認可保育園)があるため、継続実施する場合も、減免措置のあるホール等の利用は想定していない。

「クラウドファンディング活用による資金調達等。」について。これまでに活用した経験から、自治体等の補助金制度、民間の基金等の活用ができない場合のみ活用する。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

●特筆すべき課題は3つ。一つは、参加者の体験が、学校部活動と同等に扱われるようになり、中学生が主体的に選択できるようにすること。他の一つは、参加者のニーズを汲んだ複数の「地域文化倶楽部」が活動する状況を地域に創出させること。そのために民間の文化芸術団体や民間企業等との連携協力体制を構築できないかと考えている。最後の一つは、参加者のニーズに自前の機材・用具では応えられないこと。補助金や助成金で購入できる仕組みをつくって欲しい。

●今後に向けた方針・方向性は、宮崎市(本団体が拠点とする自治体)の公立学校(特に、中学校)が地域文化倶楽部を導入することになり、ニーズがあれば、本団体から自治体に連携協力体制の構築を提案させていただこうと考えている。それまでは、本モデルを継続実施し、得られた成果・課題について自治体(教育委員会、他)へ報告する。

●本事業の継続実施を想定し、継続的・定期的な補助金制度の必要性を文化庁や自治体に対して説明し続ける。また、大学が実施する技術研究会等で成果・課題について報告することで民間企業等とのタイアップの可能性を拓く。そして、より持続可能なモデルづくりに取り組んでいきたい。

以上について、部活動の段階的な地域移行に向け取り組む宮崎県・宮崎市の各教育委員会の担当者と意見交換を行うことできた。なお、宮崎県では、来年度1月に地域部活動を推進するためのシンポジウムが開催され、そこに本団体も参加する予定です。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	メニューA 前期7名/後期5名 のべ参加者数82名 メニューB クール型 前期11名/後期12名 のべ参加者数185名 体験型 のべ参加者数63名 メニューC のべ参加者数20名
	学校名	小学校・・・宮崎港小、檉北小、江平小、江南小、宮崎西小、宮崎大学教育学部 附属小、青島小、木花小、妻南小(西都市)、美郷南小(美郷町) 中学校・・・檉中、大塚中、宮崎学園中、宮崎第一中、日向学院中、宮崎大学 教育学部附属中 高等学校・・・宮崎大宮高、宮崎学園高
	募集方法	本団体のHP・SNSに掲載、過去のイベント参加者へのダイレクトメール 実施会場(劇場)エントランスへのチラシ掲示、近隣の学校や近接市町村の「芸 術家の派遣事業」(文化庁)実施校へのチラシ配布及び送付。
指導者	人数等	○特別講師等 自他ともに認めるスキルを持つエンジニア・アーティスト、大学教員等(14名) 甲斐達也:株式会社コトログ 猪口雄三:航空大学校(航空宇宙工学) 中村薫:株式会社ホロラボ 樺島 優子:宮崎大学(美術家/美術教 育) 犬飼博士:一般社団法人運動会協会 高橋るみ子:宮崎大学(振付家/舞踊教 育) 山川祐吾:DNP大日本印刷株式会社 村上剛:東京都現職教員(図画工作専 科) 大野源喜:音楽家 西純之介:映像作家 中川鈴音:振付家・ダンサー 久保田舞:振付家・ダンサー 塙睦美:振付家・ダンサー(モモンガコンプレックス) 仁科幸:振付家・ダンサー(モモンガコンプレックス) ○指導者 教職大学院(教育学・美術科教育・情報教育)を修了した本団体のアーティスト(3 名) 豊福彬文:振付家・ダンサー・情報教育(んまつーポス) みのわそうへい:振付家・ダンサー・美術家教育(んまつーポス) 児玉孝文:振付家・ダンサー・教育学(んまつーポス)
	募集方法	本団体が実施する事業の関係者(自他ともに認めるスキルを持つエンジニア・ アーティスト、大学教員等)の中から、特に本モデルに興味・関心の高い専門家 に協力・依頼した。 県外講師については、参加者からの要望や、コロナの状況、モチベーションア ップのタイミングを図りながら依頼した。特にR4年度の後期は、本モデルが拠点と する劇場で実施したAFF2(文化庁)の事業等を活用した。
参加者の移動手段		保護者による送迎(小学生・中学生) 公共交通機関の利用、及び自転車・徒歩(中学生・高校生)
活動費用	指導者謝金等	○特別講師等 5,100円/時間/人 ※県外講師のみ旅費補助 ○指導者 1,050円/時間/人
	その他	○賃金(コーディネーター、スタッフ):1,050円/時間 ○会場費:1,100円/時間 ○印刷費(チラシ、活動での使用等):120,000円 ○活動に必要な経費(道具・資料・感染対策等):120,000円
活動財源	会費	メニューA 1回1,000円 メニューB クール型 1クール12,000円(途中参加の場合は1回1,000円) 体験型 ※活動時間によってその都度設定 メニューC 1回3,000円
	その他	特になし

	<p><b>基本活動</b></p>	<p>●メニューA ちいきメタバースクラブ 月2回(年21回) 5/1, 5/15, 6/5, 6/26, 7/3, 7/17, 8/7, 8/21, 9/4, 10/2, 10/23, 11/6, 11/28, 12/11, 1/8, 1/22, 1/28, 2/4, 2/5, 2/19, 3/5</p> <p>●メニューB イマジネーションダンスクラブ クール型 月2回(年21回) 前期)4/29, 5/20, 6/3, 6/24, 7/1, 7/22, 8/5, 9/9, 9/16, 9/30 後期)10/21, 11/5, 11/25, 12/18, 12/23, 12/24, 1/6, 1/20, 2/4, 2/17, 3/3</p> <p>●メニューB イマジネーションダンスクラブ 体験型 年5回 8/3, 8/13, 8/17, 8/18, 8/19</p> <p>●メニューC ちいきコンテンポラリーダンスクラブ 年6回 12/20, 12/21, 12/22, 1/28, 2/20, 2/26</p>
<p><b>スケジュール</b></p>	<p><b>年間</b></p>	<p>主な活動内容</p> <p>●メニューA ちいきメタバースクラブ 6/4 宮崎日日新聞社の取材を受ける ※7/24 教育紙面に掲載 8/5 カジュアルミーティング/講師: 山川祐吾/DNP大日本印刷株式会社 10/2 東京大学メタバース工学部ジュニア講座の登録・受講 11/6 講義/講師: 猪口雄三/航空大学校(航空宇宙学) 11/9~13 活動拠点で開催されたAFF2事業「メタバースvsダンス」(主催: 本団体)に参加した。講師: 中村薫(エンジニア)、犬飼博士(ゲームクリエイター)、他</p> <p>2/4 メディキット県民文化センターで開催された、ダンス発表会「ムーブメント・アート・インみやざき2023」(主催: 宮崎県女子体育連盟、他)において、メタバースを活用した司会を行った。/指導: 児玉孝文(んまつーぽす) ※ 2/7 facebookに「アバター司会」の様子をアップした 3 /25 地域文化倶楽部合同発表会を開催する(予定)</p> <p>●Bコース 「イマジネーションダンスクラブ」 6/5・7/1 「子どもたちが世界のコンテンポラリーダンスを踊ってみた! シリーズ」の活動をfacebookにアップ 8/3~19 夏休み期間中に体験型を開講 5回/のべ参加者数63人 ※8/10 「子どもの力! 倉庫ビフォーアフター」の活動をfacebookにアップ 12/5 「宮崎みなとまつり」(主催: 宮崎市他)で活動の成果を発表した。 また、その様子をYouTubeで海外へ発信した。 (配信: 2022 Yokohama Dance Collectionh)/12/1~ /視聴数4.5万回) 12/23~24 活動拠点で開催されたAFF2事業ロングランダンス公演「太くて低い虹」(主催: 一般社団法人namstrops)で活動の成果を披露した。 2/4 メディキット県民文化センターで開催された、ダンス発表会「ムーブメント・アート・インみやざき2023」(主催: 宮崎県女子体育連盟、他)で活動の成果を広く地域に発表した。 2/18・3/3 「もっとダンスが好きになる-TikTok x ミメーシス」の活動をTikTokに投稿 3/25 地域文化倶楽部合同発表会を開催する(予定)</p>
<p><b>保険加入等</b></p>		<p>普通傷害保険 契約種別:レクリエーション 被保険者数 600名 ※当法人に関わるイベントに対して一括契約をしているため、本事業での保険料計上はなし</p>

# 【活動の様子（写真添付）】

## MENU A 『ちいきメタバースクラブ』



## MENU B 『イマジネーションダンスクラブ』



## コンテンポラリーダンスクラブ』

